



## 「今、福島の未来につなぐ」

認定特定非営利活動法人  
ふくしまNPOネットワークセンター

理事  
内山 愛美

2019年度春、今年のゼミ生のカラーは?「優等生」そんなイメージだった。事務局の「出番はないかも!」そんな言葉が頭をよぎる。でも、「はみ出たところがなくて、すんなり進んで面白くないかも!」とも、勝手なことを考える。

人は伸びるとき、一度、ひざを曲げて小さくなつてから大きくジャンプする。だから、はみ出した意見がチームをかき回すのは、改めて考える良い機会となると共に、のびるチャンスになると思うのだ。

そんな姿を2019年度は見ることはないかもしれない。そんな少し残念な想い。しかし、そんな考えは、すぐに吹き飛んだ。福島を担う原石同士はぶつかりあい、なかなか前に進んではくれないのだ。「あれ?」3年目事務局の私も、不安になる。

やはり、私を成長させてくれる舞台を整えていただけるのか?と、ひそかに苦笑い。

ゼミ生同士が互いを理解しあうのに時間はかかるなかつた。では、なぜ進んだり、戻ったり、立ち止まつたりを繰り返すのだろう。そんな思いで頭がいっぱいになる。

NPO活動をしている人の多くは、譲れない強い想いを持っている。いや、なければ活動は進めないのである。その想いの強さが逆に新しいものを受け入れる壁となるのだろうか?

2020年になり、フィールドワークの計画を実行に移そうというその時、コロナウイルス問題が世の中を騒がせた。「フィールドワークには行かない」それが、ゼミ生自身が決めた決断。学びと自身の所属団体、大切な人を守る代表者としての考え方。不完全燃焼で終わるかもしれない。そんな考えが取り越し苦労であったことに気づくのに時間はかかるなかつた。その後、ゼミ生同士での話し合いや合宿が行われた。

話し合いの中で、「互いの存在から得た刺激」、「課題となり停滞していた思いからの脱出」、「自信」、「ネットワークの必要性」 等々このゼミの1年間で得たこと。これから学びの方向性や今後のゼミ生の展開(ゼミ終了後も、ゼミ生同士でオンラインも活用した会合をする計画)が話し合われた。

なんだ、私の心配なんて必要ないのだ。

いつも想像を大きく超えるゼミ生の言動に今後の福島の未来をワクワク想像し、それに合わせて成長しなければならない中間支援のあるべき姿を問う。



## 「主語を『私』に」

認定特定非営利活動法人  
ふくしまNPOネットワークセンター

常勤顧問

深澤 秀樹

実は毎回、この経営ゼミでは私自身が大きな幸せを戴いている。昨年の4月に彼らに初めて会って話を聞いたとき「今回のゼミ生は日ごろから経営のことをよく考えているようだ。素晴らしいスタートがきれるぞ」と、なぜかちょっとつまらなさを含めて感じてしまった。しかし実際は残念? 今まで以上に『我慢』の連続だった。彼らは「経営の知識やノウハウを教えてもらい、身に着けることがこのゼミだ」と思い込んでいて、自団体の課題解決の『正解』を求めることに終始。曲がりくねった道を行ったり来たりで、水を向けてもなかなか「自分の経営とその視点」に心が向かわないまま、日程がどんどん過ぎていってしまった。

彼らがやっと『経営とは』に真正面からぶつかったのは、ゼミが終わりに近づいたころ。「モノサシは自分たちがつくる?」「豊かさとは市民が定義するモノ?」「ルールは誰がなぜつくるのか?」などに気づき、そして最後に出会ったキーワードが『つながり』だった。もっとみんなと話がしたい、もっと外とつながりたい、多様な中でつながれる人と出会いたい、共感できる人を増やすにはどうするか、もっとNPO同士のつながりが必要なのでは…となったのだ。そして更に「人のつながりって何?」「中長期の意識がなぜ必要なの?」「講習会や団体訪問で学ぶのは知識ではない?」となり、「大事なのは巻き込み力より巻き込まれ力」「少なくともゼミ生同士のつながりをもっと深めよう」となった。

世の中の様々な課題を、主語を「私」にして語ること、主語を「私」にして解決案を作ること、主語を「私」にして行動すること、主語を「私」にして巻き込まれていくこと、どんな団体の経営でも原点はそこにあると私は思う。そして彼らは、山を越え始めた。今回も、ありがとう、そして、卒業おめでとう!



## 「NPO 経営者ゼミを通して…」

認定特定非営利活動法人  
ふくしまNPOネットワークセンター

事業担当スタッフ  
高槻 光子

「経営者ゼミ」?経営を学ぶ大学のゼミのようなもの?このプログラムについての最初の印象はそんな漠然としたものでした。私がこのプログラムに庶務的な立場で携わって3年、毎年不安を抱えながら、また、少しの期待をもって参加されたゼミ生が、修了に近づくにつれて、頼もしく、しっかり経営者の顔になっていく姿を傍で見守っている、そんな私自身も皆さんからたくさんのこと学ばせていただいたように思います。

福島経営者ゼミ3期メンバーは偶然にも子どもを対象に活動している団体の代表者で、実績や経歴などをとっても実力者揃い?と思わせるメンバーだったため、今期は波風立つことなく進行していくのだろうと思っていました。ところが、活動している地域や抱えている課題等はそれぞれ違い、やはり、そう上手くは進んでいかないものです。例外なく立ち止まったり、後戻りするのを今期も見守ることとなりました。それが経営者ゼミなのかもしれません。(笑)

このゼミがどのようなものなのか、初めの頃は手探り状態だった彼らが、座学や視察などの回を重ねるごとに次第に前のめりになり、お互いを理解し合えるようになるまでは、そう時間がかかるなかったと思います。組織の中核を担うゼミ生だけに参加することは容易ではなかったはずですが、それほどゼミが有意義なものになっていたのだと思います。

今期は社会情勢が不安定で、予定していたフィールドワークを実行することが叶いませんでしたが、それまでのゼミを通して、今自分たちがやるべきことを学び、気づき、感じることができたのではないかでしょうか。

私自身が事務局として関わって、皆さんと共に学ばせてもらったことで改めて自分の組織について考えるきっかけとなり、やるべきことが見えてきました。

このプログラムは福島においては3年が修了したことになり、15名の修了生が誕生したことになります。この15名がさらに地元や関係団体のネットワークを広げ、福島の復興を支えていくてくれることを願っています。